

## V. 特記事項

### 1. 実践カリキュラムによる“人”を大切にし、“こころ”を育てる少人数教育

本学では小規模大学のメリットを生かし、丁寧な実践教育を行っている。本学の少人数教育の特徴は、「Face to Face」をキーワードに、クラス担当やゼミナール担当教員が中心となって、1年次から一人ひとりの適性や能力を的確に把握しきめ細かい充実した学修支援と進路指導を行っているところにある。実践教育を重視し、教員と学生が密接な関係を築いており、特に演習・実習科目では少人数グループに教員を配置し、学生一人ひとりの個性を見極めながら、“人”を大切にし“こころ”を育てるための丁寧な教育を行っている。いわば「面倒見の良い大学」が本学の真骨頂である。これらの成果は、看護学科、医療福祉学科における高い国家試験合格率や、開学以来17年連続100%の就職率につながっている。

### 2. 行政と連携し、地域の医療と福祉を教育課程内外で学ぶ地域密着型の教育体制

本学では地元大館市における福祉行政、医療福祉マネジメント、また医療・福祉の現場から看護福祉の専門職として求められる基本的な視点を身につけることを目標として、看護学科、医療福祉学科の共通基盤科目に「医療と福祉のマネジメント」を配置している。この科目は、大館市長をはじめ大館市福祉部等の複数の職員及び大館市立総合病院の看護部長や看護師長が12回の授業を担当し、本学看護学科と医療福祉学科の教員による講義と合わせて授業を行っている。学生は身近な市町村の医療・福祉行政をリアルタイムで学ぶことができ、この授業で学んだ知識を以後の講義や実習に応用展開し活用している。

また、秋田県から継続して事業委託を受け活動している思春期ピアカウンセリング事業や、市の条例に基づき大館市消防本部と連携した機能別消防団を始めとした様々な地域貢献活動を行い、教職員と学生による地域に密着した教育研究活動を実践している。

### 3. 法人内大学間の連携と遠隔講義システム

医療福祉学科では社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の資格取得を目指す医療福祉コースと福祉マインドを持った公務員、企業人を目指す行政企業コースの2コースを設け、平成29(2017)年度には、秋田市のノースアジア大学40周年記念館に秋田キャンパスを設置している。現在、秋田キャンパスでは医療福祉学科の合計48人の学生が学んでおり、大館キャンパスからの遠隔講義や秋田キャンパスでの対面授業と、単位互換制度・科目認定の利用による同一法人内のノースアジア大学や秋田栄養短期大学の授業により学修している。また、ノースアジア大学キャリアセンターや国家試験等センターでの支援を受けている。

秋田キャンパスにはキャンパス長1人と事務職員1人を配置し大館キャンパスの教職員と連携し、大館キャンパス同様にきめ細かい個別支援にあたっている。授業以外にもサークル活動やスポーツによる学年を越えた学生間の交流、保育士試験対策・語学、公務員試験における小論文対策の勉強会を実施している。このように法人内の大学と連携し、社会福祉学を中心に経済、法律、観光、栄養など幅広い知識を修得し、将来の選択肢を広げるための学びの場を提供している。